

# 学校不適應支援に関する調査 2026

## 【中学校教育相談（不登校・別室登校）担当教諭対象】

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

○この調査は、いじめや不登校といった「学校不適應のある生徒への支援体制の現状」について、先生のお考えについてお聞きするものです。

○調査対象者は、 高等学校第2学年学年主任の先生 です。

○正しい答え・間違った答えなどはありませんので、ご回答される先生の思った通りにお答えください。

○本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。

○それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。

ご回答もれのないようお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【回答期限：9月7日(月)まで】

---

### 【 】ご回答される先生と学校（基本情報）についてお答えください。

(1) 貴校の所在地について選んでください。

☐東京都    ☐神奈川県    ☐埼玉県    ☐千葉県

(2) 貴校の学校種について選んでください。

☐中学校    ☐中等教育学校    ☐その他 (                      )

(3) 貴校の設置種について選んでください。

☐公立校    ☐私立校    ☐国立校    ☐その他

(4) 貴校の形態について選んでください。

☐共学校    ☐男子校    ☐女子校

☐ ~ 100 名      ☐ 100 名 ~ 200 名      ☐ 200 名 ~ 300 名      ☐ 300 名 ~ 400 名      ☐ 400 名 ~ 500 名

☐ 500 名 ~ 600 名      ☐ 600 名 ~ 700 名      ☐ 700 名 ~ 800 名      ☐ 800 名 ~ 900 名      ☐ 900 名 ~ 1000 名

☐ 1000 名以上

☐教育相談主任      ☐生徒指導主事      ☐別室（スペシャルサポートルーム等）専任担当      ☐学年主任

☐学級担任      ☐その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

☐ 1 年未満      ☐ 1 年以上 3 年未満      ☐ 3 年以上 5 年未満      ☐ 5 年以上

## ④ 友人関係の急激な変化や孤立

☐全く実施していない    ☐あまり実施していない    ☐ある程度実施している    ☐組織的に実施している

☐1 全く重視していない    ☐2    ☐3    ☐4    ☐5 非常に重視している

④ 対話やカウンセリング、ゲーム等の「心理的ケア・居場所機能」

☐1 全く重視していない    ☐2    ☐3    ☐4    ☐5 非常に重視している

⑤ 社会的スキルの獲得や集団適応のための「小集団活動」

☐1 全く重視していない    ☐2    ☐3    ☐4    ☐5 非常に重視している

★ 補足：現在の別室利用生徒全体の傾向として、以下の「主たる背景や特徴（タイプ）」に該当する生徒がどの程度存在しますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。（※重複カウント可）

⑥ 精神健康・不安タイプ（学校や集団に対する強い不安、起立性調節障害等の身体症状、精神医学的課題（抑うつ等）が主たる背景にある生徒）

☐10%未満    ☐10%～20%    ☐20%～30%    ☐30%～40%    ☐50%～60%    ☐60%～70%  
☐80%～90%    ☐90%～100%

⑦ 人間関係・回避タイプ（いじめや友人関係のトラブル、教師との関係の不和など、特定の人間関係の回避が主たる背景にある生徒）

☐10%未満    ☐10%～20%    ☐20%～30%    ☐30%～40%    ☐50%～60%    ☐60%～70%  
☐80%～90%    ☐90%～100%

⑧ 発達特性・困り感タイプ（発達障害（またはその疑い）の特性があり、教室の一斉指導の環境や集団生活のルールに強いストレスや困り感を抱えている生徒）

☐10%未満    ☐10%～20%    ☐20%～30%    ☐30%～40%    ☐50%～60%    ☐60%～70%  
☐80%～90%    ☐90%～100%

⑨ 無気力・非活動タイプ（登校意欲や学習意欲が著しく低下しており、明確な理由はないが教室への入室を拒む、あるいは別室で活動せずに過ごしがちな生徒）

☐10%未満    ☐10%～20%    ☐20%～30%    ☐30%～40%    ☐50%～60%    ☐60%～70%  
☐80%～90%    ☐90%～100%

⑩ 複合的家庭背景タイプ（学校の規律への反発や遊び、あるいは複雑な家庭環境（ヤングケアラー等）や保護者の養育態度の影響が主たる背景にある生徒）

☐10%未満    ☐10%～20%    ☐20%～30%    ☐30%～40%    ☐50%～60%    ☐60%～70%  
☐80%～90%    ☐90%～100%

---

#### 【４】キャリアカウンセリング領域に関する支援についてお答えください。

【以下のそれぞれの項目について、別室登校生徒に対してどの程度支援を行っているかを考え、もっともあてはまる番号に○をつけてください。】

※別室がない場合は、日頃の関わりや支援全体を振り返ってお答えください。

① 生徒が自身の長所や得意なことに気づき、自己肯定感を高められるよう援助している。（例：活動成果や作品を具体的に褒める等）

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

② 生徒が不登校に伴う不安やストレスに対処する方法（コーピング）を一緒に考えている。（例：リラックスできる呼吸法を教える等）

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

③ 生徒が自分の現在の状態（学校に行けない現状など）をありのまま受け入れられるよう情緒的に支えている。（例：罪悪感を和らげる等）

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

④ 生徒が自らの苦手さやうまくやれないことを理解し、それも自分の一部分として受け入れられるよう（自己受容）援助している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑤ 保健室や面接の場で、生徒が安心して他者（教師や他の生徒など）とコミュニケーションをとれる環境を整えている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑥ 生徒が周囲の人々（家族、教師、友人など）の立場や気持ちを想像し、理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑦ 小集団活動や個別の関わりを通じて、生徒が集団内での自分の役割や居場所を見出せるよう援助している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑧ ソーシャルスキルトレーニング ( SST ) など、対人関係や社会的スキルを育成するための心理教育的アプローチを取り入れている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑨ 生徒が学業の遅れを取り戻すための具体的な学習計画の作成や、学習環境の調整をサポートしている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑩ 生徒が学校生活のルールや、遅刻・欠席をめぐる問題に対して自ら具体的な解決策を見出せるよう促している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑪ 生徒自身が今後の生活や進路に必要な情報 ( 学校の制度やサポート機関など ) を自ら調べ、選択できるよう援助している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑫ 生徒が一人で問題を抱え込まず、必要に応じて周囲の大人や友人に助けを求める力 ( 援助要請スキル ) を育む援助をしている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑬ 生徒が将来の生き方や就きたい職業について、前向きな展望 ( キャリアイメージ・キャリア意識 ) を

持てるよう関わっている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑭ 元の教室への復帰だけでなく、多様な進路（通信制高校、定時制、サポート校、オルタナティブな学びの場など）の選択肢を提示し、生徒自身の主体的な選択を尊重している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑮ 将来の目標や社会的自立に向けて、今どのようなステップを踏めばよいか、具体的な人生設計（ライフプラン）を一緒に組み立てている。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

⑯ 現在の学校（保健室）生活やこれまでの経験（不登校の経験含む）が、将来の社会的自立や社会的な役割にどうつながっているかを理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない    ☐2    ☐3 どちらともいえない    ☐4 ある程度行っている    ☐5 十分に行っている

---

## 【５】不登校支援における困りごと・連携についてお答えください。

★1 不登校生徒の対応や別室運営を行うにあたり、どのような点に難しさや困り感（ストレス）を抱えていますか。それぞれ当てはまるものを１つ選んでください。

① 本来業務の圧迫（対応にかかりきりになり、自身の本来の校務（教科指導や学級担任業務等）が圧迫される）

☐全く感じない    ☐あまり感じない    ☐ある程度感じる    ☐強く感じる

② 臨床的専門性の限界（生徒の心理的背景（精神医学的問題や家庭環境の複雑さ）に対する自身の専門性不足）

☐全く感じない    ☐あまり感じない    ☐ある程度感じる    ☐強く感じる

③ 同僚教員との温度差（教科担任や学年スタッフとの間で、生徒への対応方針（厳しさ・優しさのバラ



ンス)の温度差がある)

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

④ 組織等助言の難しさ(学校全体としての統一した対応の難しさや、担任・関係教員への個別アプローチの助言が浸透しにくい)

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑤ 進路選択の板挟み(進路選択の際、本人の希望と学力、あるいは保護者の意向(全日制へのこだわり等)との板挟みになる)

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑥ 役割・基準の曖昧さ(生徒の出席認定や成績評価(内申点)の基準が曖昧で、教科担任や組織との調整に苦慮する)

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

★2 不登校(傾向)生徒へのキャリア支援・保健室対応を行う際、校内のスタッフや外部機関とどの程度の頻度で情報を共有し、連携していますか。もっともあてはまる頻度に○をつけてください。

| 対象機関・スタッフ                 | 全く連携していない | 学期に1回程度 | 月に1回程度 | 週に1回程度 | 毎日 |
|---------------------------|-----------|---------|--------|--------|----|
| 1. 学級担任・学年教員              | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 2. 教育相談<br>(別室登校)<br>担当教員 | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 3. 特別支援教育コーディネーター         | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |

| 対象機関・スタッフ                       | 全く連携していない | 学期に1回程度 | 月に1回程度 | 週に1回程度 | 毎日 |
|---------------------------------|-----------|---------|--------|--------|----|
| 4. スクールカウンセラー (SC)              | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 5. スクールソーシャルワーカー (SSW)          | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 6. 管理職 (校長・副校長等)                | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 7. 教育センター等 (教育委員会含む)            | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 8. 医療機関                         | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |
| 9. 児童相談所・子ども家庭支援センターなど (福祉関係含む) | 1         | 2       | 3      | 4      | 5  |

⑦-2 上記の連携の中で、不登校生徒の社会的自立 ( キャリア発達 ) を促す上で「特に有効に機能している連携」または「機能しておらず課題と感ずる連携」があれば、その具体的な理由を教えてください。

(  
)

⑧ 現在の学校システムにおいて、不登校傾向のある生徒への「早期発見・キャリア支援（社会的自立に向けたアプローチ）」を充実させるために、今後どのような体制構築や支援（ガイドブックやマニュアル、研修等）が必要だと考えますか。あなたの意見を率直にお書きください。

(  
)

---

## 【6】個別の事例についてお答えください。

あなたがこれまでに経験した「不登校（または不登校傾向）の児童生徒への対応」の中で、特に印象に残っている事例を1つだけ思い浮かべてください（「支援がうまく機能した事例」「困難を極めた事例」のいずれでも構いません）。以下の質問では、その事例についてお答えください。※個人が特定されないよう、配慮してお答えください。

① 対象生徒の学年    ☐ 中学1年    ☐ 中学2年    ☐ 中学3年

② 対象生徒の性別    ☐ 男    ☐ 女    ☐ その他（                      ）

③ 事例についての評価（先生の主観で構いません）

☐ 比較的うまくいった（解決に向かった）    ☐ あまりうまくいかなかった（課題が残り、難しさを感じた）    ☐ その他（                      ）

④ 生徒の問題として、あてはまるもの全てにチェックしてください（複数回答可）。

☐ 生活面における問題：（例）欠席や遅刻が改善されない。身の回りの整理ができず日々忘れ物が多い。

☐ 学習面における問題：（例）教科の提出物がまったく出せないため、低い評価がついてしまう。

☐ 対人関係における問題：（例）周囲との人間関係がうまくできないため、クラスや学校になじめていなかった。

☐ 進路指導における問題：（例）自分の実力に伴わない進路に固執してしまい、結果、不本意な進路となってしまった。

☐ その他の問題：（例）病院や専門機関をすすめた結果、本人や保護者との関係がこじれた。

⑤ 本人の特性や家庭環境など、事態が表面化する前から存在していた「背景やリスク（慢性的要因）」として、どのようなものがありましたか。あてはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。

☐ 本人の心理的特性（発達の偏り、易刺激性：過敏さ、不安の強さなど）

☐ 本人の身体的特性（身体症状等）

☐ 家庭環境の課題（保護者との関係、ヤングケアラーなど）

☐ 学業不振

☐ その他（ ）

⑥ 登校しぶりや不登校が本格化する直接の「きっかけ（契機となった出来事）」は何であったと考えられますか。具体的にお書きください。

（  
）

⑦ 事態の深刻化を防ぐため、あるいは本人の支えとなった「保護要因（リソース・強み）」は何でしたか。あてはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。

☐ 本人の強み（趣味、特定の教科への関心等）

☐ 良好な家族関係（理解ある保護者、きょうだい等）

☐ 相談できる友人関係

☐ 校内のリソース（保健室、特定の教員、カウンセラー等）

☐ 外部機関（医療、適応指導教室等）

☐ その他（ ）

⑧ 事例の経過の中で、状況が大きく動いた「ターニングポイント（良くも悪くも転機となった局面）」はどこでしたか。また、その際に行われた効果的なアプローチ（または課題となった対応）は何でしたか。できるだけ具体的に教えてください。

（  
）

⑨ この事例の経験から得られた、「同様のケースに対応する際に重要となる視点や教訓」は何ですか。あなたの立場における組織対応やキャリア支援の観点も含めて、一般化できる知識として他者に伝えるとしたら、どのようなことになりますか。できるだけ具体的に教えてください。

(  
)

---

【最後に】

学校不適応対応について、別途インタビュー調査にご協力いただける場合は、下記に学校名と担当者のお名前をご記入くださると幸いです。なお、これまでのご回答内容に関しましては、統計上の処理を施すため、学校名が特定されることは一切ございませんので、ご安心ください。

⑩ 学校名 ( )

⑪ 担当の先生のお名前 ( )

アンケートは以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。